

今日の黙想のてびき

週日聖書日課 出エジプト記 15:22~27
2026年5月13日(水)

◆文脈

- 葦の海での海割りの奇跡により、ついにイスラエルの民はエジプト軍から逃げ切ることができました。神は確かにこの民を奴隷の家から救い出してくださいました。
- けれどもここから荒れ野の旅が始まります。「乳と蜜の流れる地」どころか、砂漠に行くことになったのです。それは単に自然環境が厳しい旅ということではなく、厳しい信仰の試練の旅でした。
- 神は、この民の不平や不従順、不信仰にも関わらず決してお見捨てになりませんでした。

◆あらすじと説き明かし

- 賛美を持って民は旅を始めます(15:1-21)。けれども、時間が立つと飲料の不足という現実問題が興ります。賛美の歌は不満の声に変わります。マラの地の水は飲用に適さなかったのです。そこで神はモーセのとりなしを聞き、一本の木を投げ入れると水は飲めるようになりました。神はモーセの祈りに応えて、民の必要に迅速に応じてくださったのです。
- けれども、神は無節操な民の要望になんでも応えてくださる、というわけではありません。神がここで掟と法をお与えになったのは、何よりも神の御心を求めて旅をする(生きる)べきであるということです。イスラエルの民は神に仕えるためにこそファラオから自由にさせていただいたのです。
- 文章の形で律法が与えられるのはこの先です。けれどもここではすでに「(あなたの)神、主の声に必ず聞き従い、主の目に適うことを行い・・・」という戒めが与えられています。「その掟」の中身はこの後明らかになるのですが、ここでは神に従うことそのものが民に求められているのです。
- この荒れ野の旅の最初に短く記された出来事は、このあとの民の歩みとそれにお応えなさる神の姿をあらわしています。問題が生じ、民が不満をもらし、モーセがそれを取りなし、神が救ってくださるのです。このように、さまざまな出来事が起こり、民も迷いますが、民は神の声を聞き、神の導きに従うべきであることが示されます